

第8節 アフリカ

1 概観

アフリカは、54か国に約15億人⁽¹⁾を擁し、2050年には世界人口の4分の1を抱えるようになるといわれるなど、若く、エネルギーと潜在力にあふれた地域である。豊富な鉱物資源や高い経済成長率を誇り、日本の経済安全保障やバリューチェーンの確保の観点からも重要な地域であると言えるほか、更に開拓すべき投資先として世界の関心も集めている。

加えて、アフリカは、いわゆる「グローバル・サウス」の中核を占める地域であり、近年の経済成長やアフリカ連合(AU)⁽²⁾を中心とした政治・経済統合の動きも相まって、国際社会における存在感を一層強めている。アフリカ諸国との連携強化は、責任あるグローバル・ガバナンス⁽³⁾の構築を含め、日本が重視する外交政策を国際社会で推し進めていく観点からも、極めて重要と言える。

一方、アフリカ地域では依然として、紛争やテロ、政治的混乱が平和と安定を脅かしている地域も存在し、また、貧困や飢餓といった深刻な開発課題も抱えている。こうしたアフリカ地域が直面する諸課題は世界の課題にも直結し得るものであり、早急な対策が必要となっている。

2025年もアフリカの複数の地域において、不安定な政治・治安情勢が見られる年となった。1月末以降、コンゴ民主共和国東部におい

て武装勢力による攻撃が激化し、同地域の主要都市を実効支配した。アフリカ東南沖のインド洋に位置するマダガスカルでは、9月末以降、若者を中心とした抗議活動が発生し、大統領の辞任・政権交代に要求が発展した。同大統領の国外退避に伴い、軍司令官が暫定大統領に就任した。アフリカ西端部に位置するギニアビサウでは、11月に大統領選挙が実施されたが、その暫定結果発表予定日の前日に、同選挙に立候補した現職のエンバロ大統領らが軍に拘束され、陸軍参謀総長が暫定大統領に就任するクーデターが発生した。また、西アフリカ中央部のギニア湾岸に位置するベナンでは、12月に軍の一部によるクーデター未遂が発生した。サヘル地域⁽⁴⁾では2020年以降、マリ、ブルキナファソ及びニジェールで軍事的政権奪取が発生した後もテロの脅威が続いている。

2025年、ガボン、カメルーン、コートジボワール、ギニアビサウ、中央アフリカ、ギニア、マラウイ、セーシェル、タンザニアでは大統領選挙が行われた。

4月、岩屋外務大臣は、セネガルを訪問し、同国大統領、首相及び外相と意見交換を行った。また、この機会に、岩屋外務大臣は、日本の支援で1984年に設立したセネガル日本職業訓練センターを視察するとともに、現地の日本企業

(1) 2023年7月時点 (“World Population Prospects, 2024”, Population Division, Department of Economic and Social Affairs, United Nations)

(2) AU: African Union

(3) グローバル・ガバナンス: 国内のように上位の統治機構が存在しない国際社会において、国家間にまたがる課題への対応に予見可能性や安定性、秩序を持たせるための取組(機関、政策、規範、手続、イニシアティブの総体)

(4) 「サヘル」とはサハラ砂漠の南に位置する広範囲な地域のこと、厳密な定義はないが、一般にモーリタニア、マリ、ニジェール、ブルキナファソ、チャドなどが位置する地域を指す。

関係者と意見交換を行った。8月に横浜で開催した第9回アフリカ開発会議（TICAD⁽⁵⁾ 9）には、33人の首脳級を含むアフリカ49か国に加え、共催者（国連、国連開発計画（UNDP）、世界銀行、アフリカ連合委員会（AUC⁽⁶⁾）、国際機関、民間企業、国会議員及び市民団体等が参加し、「革新的な課題解決策の共創」をテーマに、「経済」、「社会」、「平和と安定」の3分野について活発な議論が行われた（8ページ巻頭特集参照）。特に、各分野を横断する重要事項として、「民間セクター主導の持続的な成長」、「若者・女性」、「地域統合及び域内外の連結性」に焦点が当てられた。3日間の議論の成果は、首脳宣言である「TICAD 9横浜宣言」にまとめられ、採択された。

一つ目の柱の「経済」では、日本から、民間セクター主導の持続的な成長の促進、地域統合と域外との連結性強化、産業エコシステム強化による経済多角化などに関する日本の取組を紹介した。アフリカ各国や国際機関等を含む参加者からは、アフリカの潜在力をいかした経済成長のため、鉱物資源の活用を含む産業の育成、経済の多角化、法制度整備等のグッド・ガバナンス、インフラ整備やアフリカ大陸自由貿易経済圏（AfCFTA）等による域内貿易やバリューチェーン強化、デジタル化、教育・人材育成等

の人への投資、債務問題、適切な資金調達、エネルギーアクセス改善等が指摘されるとともに、日本企業の更なるアフリカへの投資やパートナーシップの強化に期待が示された。

二つの目の「社会」では、日本から、誰一人取り残すことのない社会をアフリカと共に創り上げるため、教育・人材育成、保健、環境、防災分野に関する日本の取組について紹介した。アフリカ各国や国際機関等を含む参加者間での議論の中では、質の高い教育へのアクセス改善、職業訓練といった人への投資や、若者・女性の能力強化、保健システムの強化、水・衛生、気候変動対策、防災等の取組が不可欠との指摘があるととともに、日本の更なる協力への期待が示された。

三つ目の「平和と安定」に関しては、日本から、「平和と安定」は、持続的な経済成長、包摂的な社会の礎であるとして、同分野における日本の取組を紹介した。アフリカ各国や国際機関等を含む参加者は、開発と繁栄にとって平和と安定が不可欠の前提であることを強調しつつ、アフリカ自身による解決、アフリカの機構や取組の強化、若者・女性の役割強化、紛争の予防や根本原因への対処等の必要性や国連安全保障理事会改革の重要性等が指摘されたとともに、更なる協力強化への期待が示された。

2 アフリカ連合 (AU)

アフリカ連合（AU）は、アフリカ55の国・地域が加盟し、アフリカの一層の政治・経済的統合を目標に掲げる世界最大級の地域機関である。

2月、AU総会の機会を捉え、英利アルフィヤ外務大臣政務官がエチオピアを訪問し、ベケレ＝トーマスAUDA-NEPAD（AU開発庁－アフリカ開発のための新パートナーシップ）長官やアブラクワ・ガーナ外相、ブタレ・ボツワ

ナ国際関係相などアフリカ各国閣僚等との間で会談や懇談を行った。

8月に横浜で開催されたTICAD 9には、AUの事務局でありTICADの共催者でもあるAU委員会（AUC）から、ユスフAUC委員長、ハダディ副委員長ほか関連分野の委員ら多数が参加し、ユスフAUC委員長は石破総理大臣と会談を行った。

(5) TICAD : Tokyo International Conference on African Development

(6) AUC : African Union Commission

3 東部アフリカ地域

(1) ウガンダ

ウガンダは、ムセベニ大統領による長期政権の下、安定した内政を背景に経済成長を維持している。周辺国からアフリカ最大となる200万人に迫る難民を受入れ、AUソマリア支援安定化ミッション（AUSSOM）への派兵国の中で最大兵力を提供するなど、「アフリカの角」⁽⁷⁾地域の安定に向けて貢献している。

5月には、英利アルフィヤ外務大臣政務官がウガンダを訪問し、ムセベニ大統領及びナバンジャ首相への表敬、及びオケロ国際問題担当国務相との会談を行った。8月のTICAD 9では、アルボ副大統領が石破総理大臣を表敬し、10月の大阪・関西万博のウガンダ・ナショナルデー出席のため訪日したナバンジャ首相が林芳正官房長官と会談を行った。これらの会談を通じて、両国は、良好な二国間関係の一層の発展及び国際場裡での協力を確認した。

(2) エチオピア

エチオピアは、アフリカ第2位の人口（1.3億人）を背景に、高い経済的潜在力を有するとともに、為替自由化や財政改革などのマクロ経済改革を実施している。また、同国北部の紛争終結から3年が経過し、首都アディスアベバでは街路の整備が進んでいる。アムハラ州などでは引き続き戦闘が散発するなど、国内の安定化が今なお課題である。2月のメスガヌ外務副相と英利外務大臣政務官との会談（日・エチオピア政策協議）や8月のTICAD 9出席のため訪日したハデラ外務副相と藤井比早之外務副大臣との会談などを通じ、両国は、多岐にわたる分野で二国間関係を更に発展させることで一致した。

(3) エリトリア

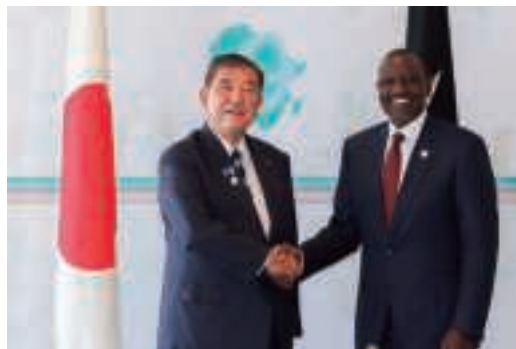
エリトリアは、インド洋とスエズ運河・欧州

を結ぶ国際航路に位置し、同国領海は多数の日本関係船舶が航行する安全保障上の要衝である。アフリカの角地域の平和と安定に同国が果たす役割の重要性を踏まえ、1月に在エリトリア兼勤駐在官事務所を大使館へ格上げした。

(4) ケニア

ケニアは、「法の支配」を始め、価値や原則を共有する重要な同志国であるとともに、東アフリカの経済的ハブであり、アフリカ有数の日系企業拠点の一つとなっている。

1月には、藤井外務副大臣を団長とするアフリカ貿易・投資促進官民合同ミッションがケニアを訪問し、両国の政府関係者及び企業の代表者との間で、二国間の経済交流の促進に向けた幅広い議論が交わされた。6月には、大阪・関西万博のケニア・ナショナルデー行事への参加のため、キニャンジュイ投資・貿易・産業長官が訪日した。8月には、TICAD 9への参加のため、ルト大統領が訪日し、石破総理大臣との首脳会談において、両国は、二国間関係及び国際場裡での協力を一層強化していくことで一致するとともに、アフリカ情勢や国連安全保障理事会（国連安保理）改革といった地域情勢及び国際場裡の諸課題に連携して対応していくこと



日・ケニア首脳会談
（8月20日、横浜 写真提供：首相官邸ホームページ）

(7) 「アフリカの角（Horn of Africa）」とは、アフリカ大陸の北東部のインド洋と紅海に向かって「角」のように突き出た地域の呼称で、エチオピア、エリトリア、ジブチ、ソマリア、ケニアの各国が含まれる地域のこと

を確認した。

(5) コモロ

コモロは、日本と同じ海洋国として「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)」を支持しているパートナーである。アザリ大統領の下、2030年までに新興国入りを目標とする「コモロ新興計画2030」を掲げ、湾港などのインフラ整備、持続可能な漁業などのブルーエコノミー⁽⁸⁾を推進している。

8月には、大阪・関西万博のコモロ・ナショナルデー出席のため、ムストイファ経済産業投資相・経済統合担当が訪日したほか、TICAD 9では、石破総理大臣とアザリ大統領との間で首脳会談を実施した。



日・コモロ首脳会談
(8月21日、横浜 写真提供：首相官邸ホームページ)

(6) ジブチ

ジブチは、欧州とアジアを結ぶ主要な交易路に面する戦略的要衝に位置し、FOIP実現のための重要なパートナーである。2009年から、日本の自衛隊がアデン湾・ソマリア沖で海賊対処行動に従事しており、2011年にジブチに設置された自衛隊拠点は在外邦人などの保護及び輸送にも活用されている。

5月には、英利外務大臣政務官がジブチを訪問し、アブドゥルカデル首相などと会談を行った。6月には、ディレイタ国民議会議長が訪日し、岩屋外務大臣と会談を実施した。加えて、8月のTICAD 9では、岩屋外務大臣とオマー

ル外務・国際協力相との間で外相会談を実施した。これらの会談を通じて、両国は、良好な二国間関係をより一層発展させていくことで一致した。また、10月には、大阪・関西万博のジブチ・ナショナルデー行事への参加のため、モハメド商業・観光相が訪日した。

(7) スーダン

スーダンでは、2023年4月以降、同国の国軍と即応支援部隊との武力衝突が継続しており、深刻な人道危機が発生している。日本は、スーダン及び周辺国の人道状況改善に向けた人道支援を実施している。9月には、ヤクーブ産業・貿易相が、大阪・関西万博のスーダン・ナショナルデー行事への参加のために訪日し、復興段階での日本企業のスーダンへの投資を呼びかけた。

(8) セーシェル

セーシェルは、インド洋有数の経済水域を有する、FOIP実現のための重要なパートナーである。また、2026年には日・セーシェル外交関係樹立50周年の節目を迎える。

3月には、前年に続き、日本の海上自衛隊掃海艇がセーシェルに寄港し、両国間で親善訓練が実施された。8月のTICAD 9にはラデゴン外務・観光相が参加し、岩屋外務大臣との間で会談が行われた。また、9月には、大阪・関西万博のセーシェル・ナショナルデーの機会にフェラーリ首席大臣兼漁業・ブルーエコノミー相が訪日した。10月には大統領選挙と国民議会選挙が行われた結果、エルミニ大統領が就任した。

(9) ソマリア

ソマリアでは、2022年5月に就任したハッサン大統領の下、平和構築や国造りの努力が続けられており、日本はソマリア政府の取組を後押ししている。

6月、訪日したハムザ外務・国際協力省次官

(8) 海洋資源などの活用により、持続可能な経済成長を推進するコンセプト

が藤井外務副大臣を表敬し、日本は、2025年から2026年にかけて安保理非常任理事国を務めるソマリアと、安保理を含め国連の場でも緊密に連携することで一致した。8月のTICAD 9では、岩屋外務大臣とシェイク・ファラー計画・投資・経済開発相が会談し、両国は、地域情勢及び国際場裡の諸課題に連携して対応していくことを確認した。また、10月には、大阪・関西万博のソマリア・ナショナルデー行事への参加のため、ムルサル外務国際協力副相が訪日した。

(10) タンザニア

タンザニアは、アフリカの東部と南部を結ぶ要衝に位置し、経済成長を続けている。5月には、大阪・関西万博のタンザニア・ナショナルデーに際し、マジヤリワ首相が訪日し、石破総理大臣と首脳会談を行った。会談を通じて二国間協力について議論するとともに、国際場裡においても緊密に連携していくことを確認した。8月のTICAD 9では、岩屋外務大臣とコンボ外務・東アフリカ協力相による外相会談が行われた。10月末には大統領選挙が行われ、サミア大統領が再選された。大統領選挙等に際し、ダルエスサラームを含むタンザニア国内各地で死傷者を伴う混乱が発生した。

(11) ブルンジ

ブルンジは、アフリカ大陸中央部に位置する内陸国であり、日本は1970年代以降、母子保健や農業分野での基礎的社会サービス向上などの開発協力を継続的に行っている。6月には、大阪・関西万博のブルンジ・ナショナルデー出席のため、ニジンベレ商業・交通・産業・観光相が訪日した。8月のTICAD 9では、石破総理大臣とンダイシミア大統領が首脳会談を行い、両国は、良好な二国間関係の更なる発展に向けて引き続き協力していくことを確認した。

(12) マダガスカル

マダガスカルは、アフリカ東南部沖のインド洋に位置する島国でFOIPを支持しており、鉦

物資源供給元としても重要な国である。8月のTICAD 9では、石破総理大臣とンツァイ首相が首脳会談を行い、FOIPの実現に向けて共に取り組んでいくことで一致した。9月末には、停電及び断水に対する抗議活動が拡大した結果、ラジヨリナ大統領が国外退避し、10月にランジアニリナ大佐が再建大統領に就任した。

(13) 南スーダン

南スーダンでは、2013年12月の衝突以降混乱が続いたが、2018年9月には「再活性化された衝突解決合意」が署名された。2025年3月以降、当事者間の対立が激しくなり、マシャル第一副大統領が自宅で軟禁された。日本は、これまで独立行政法人国際協力機構(JICA)を通じた開発協力や国連平和維持活動(PKO)への支援を通じて、同国の平和と安定を継続的に支援しており、岩屋外務大臣は、8月のTICAD 9出席のため訪日したセマヤ外相との外相会談において、南スーダンの選挙について、公正で透明性のある選挙が実施されることへの期待を述べた。

(14) モーリシャス

モーリシャスは、価値と原則を共有するFOIP実現のためにも重要な国である。5月には、英国との間でディエゴ・ガルシアを含むチャゴス諸島に関する英国・モーリシャス協定に署名した。チャゴス諸島全体についてモーリシャスの主権が認められ、両国で批准に向けた手続が行われている(2025年末時点)。7月には、大阪・関西万博のモーリシャス・ナショナルデーの機会にラムフル外務・地域統合・国際貿易相が訪日し、岩屋外務大臣と会談した。8月のTICAD 9にはランゲラム首相が参加し、石破総理大臣と会談を行ったほか、同月、駐日モーリシャス大使館が開設された。

(15) ルワンダ

ルワンダではカガメ大統領の下、2035年までに上位中所得国入りを目指す努力が続けられている。6月、大湖地域の持続的な安定に向けて、

米国、カタル、AUによる仲介努力により、コンゴ民主共和国との間で和平合意に署名した。7月には、大阪・関西万博のルワンダ・ナショナルデーに出席のため、セバヒジ貿易産業相が

訪日し、また8月には、TICAD 9出席のため訪日したドゥフンギレへ外務・国際協力相と岩屋外務大臣との間で外相会談が行われた。

4 南部アフリカ地域

(1) アンゴラ

アンゴラは安定した政治基盤を有し、地域の平和と安定に重要な役割を果たしている。同国は2025年にAU議長国を務めており、8月のTICAD 9ではロウレンソ大統領が石破総理大臣と共に共同議長を務め、首脳会談が行われた。

2月には、南アフリカで開催されたG20外相会合の機会を捉え、岩屋外務大臣とアントニオ外相が会談した。7月の大阪・関西万博のアンゴラ・ナショナルデーに参加するため、ブラガンサ大統領府社会分野担当相が訪日した。日本からも、7月に総理特使として山際大志郎衆議院議員がロウレンソ大統領を表敬し、TICAD 9共同議長としての協力を要請した。また、11月のアンゴラ独立50周年記念式典には大西洋平外務大臣政務官が出席し、ロウレンソ大統領を表敬して総理親書を手交した。

(2) エスワティニ

エスワティニは、国王であるムスワティ3世の下、君主が自ら政治に積極的に関わる体制が維持され、またアフリカで唯一、台湾と外交関係を有する国である。6月には、大阪・関西万博のエスワティニ・ナショナルデー出席のため、ドラミニ首相が訪日し、石破総理大臣と首脳会談を実施した。8月のTICAD 9では、ムスワティ3世国王及びマツェブラ王妃が訪日し、石破総理大臣と同国王陛下が首脳会談を実施し、両首脳は、二国間関係を一層強化することで一致した。

(3) ザンビア

銅などの豊富な鉱物資源を有するザンビアと

は、2024年に外交関係樹立60周年を迎え、2025年2月にはヒチレマ大統領が訪日し、石破総理大臣と会談した。7月には大阪・関西万博のザンビア・ナショナルデー出席のためシクンバ観光相が訪日、また、8月にはナルマンゴ副大統領がTICAD 9出席のため訪日し、石破総理大臣を表敬した。ザンビアへの投資には日本企業も関心を有しており、2月に署名された日・ザンビア投資協定も踏まえ、活発なハイレベルでの交流を通じ、二国間関係の強化と国際場裡での協力深化を確認した。

(4) ジンバブエ

ジンバブエは、豊富な鉱物資源や肥沃な土地に恵まれた内陸国であり、南部アフリカ地域における交通・流通及び送電などの要衝である。2025年に日本とジンバブエは外交樹立45周年を迎えた。7月には、ムナンガグワ大統領が大阪・関西万博ジンバブエ・ナショナルデーに出席するために訪日したほか、8月のTICAD 9にも出席し、石破総理大臣との首脳会談を行った。同会談で、両首脳は、二国間関係の強化と国際場裡での協力について一致した。また、9月にはムデンダ国会議長が訪日し、衆参両院議長や日本・AU友好議員連盟の議員と会談し、議員間交流の活性化について議論した。

(5) ナミビア

2024年11月の大統領選挙で勝利した与党の南西アフリカ人民機構（SWAPO）党首のナンディ＝ンダイトワ副大統領が、3月21日に同国初となる女性大統領に就任した。同日に行われた大統領就任式及び独立35周年記念式典には、鈴木貴子衆議院議員が特派大使として

出席し、同大統領への表敬を行った。8月には、TICAD 9出席のため訪日したングラレ首相が石破総理大臣と会談し、両首脳は、鉱物・エネルギー資源やグリーン水素における投資促進や人材支援における協力、二国間関係の更なる発展について一致した。

(6) ボツワナ

南部アフリカの安定した民主主義国であるボツワナは、ダイヤモンド資源を背景に成長してきたが、ダイヤモンド価格下落に伴い、同国では経済多角化が最重要課題となっている(2025年末時点)。8月、TICAD 9の際には、ハオラテ副大統領兼財務相が石破総理大臣を表敬したほか、プタレ国際関係相と岩屋外務大臣が外相会談を行った。11月にはハオラテ副大統領兼財務相が閣僚級招へいで再訪日し、茂木外務大臣と会談を行い、両国は、二国間関係の更なる強化に向け一層協力していくことで一致した。



日・ボツワナ外相会談(11月26日、東京)

(7) マラウイ

日本は、価値や原則を共有するマラウイと長年にわたり友好関係を築いており、6月には、大阪・関西万博のマラウイ・ナショナルデー出席のため、ムンバ貿易・産業相が訪日した。8月のTICAD 9では、岩屋外務大臣とテンボ外相が会談を行い、両国は、世界最多の累積派遣数を誇るJICA海外協力隊派遣を通じた友好関係の増進や経済関係の強化により、二国間関係を更に発展させることで一致した。9月には大統領選挙が実施され、ムタリカ元大統領が当選を果たした。

(8) 南アフリカ

南アフリカは、2024年12月からアフリカで初となるG20議長国を務めた。2月のG20外相会合では、岩屋外務大臣がラモラ国際開発・協力相と会談し、二国間関係の強化や国際場裡における連携を確認した。3月にはマシャティーレ副大統領が外務省閣僚級招へいで訪日し、石破総理大臣を表敬したほか、林官房長官との会談を実施した。8月にはTICAD 9出席のためにラムポーザ大統領が訪日し、石破総理大臣との首脳会談を実施した。11月には高市総理大臣がG20首脳会合に出席し、ラムポーザ大統領と首脳会談を行い、TICAD 9及びG20サミットの成果を踏まえ、両国で今後も緊密に協力していくことで一致した。

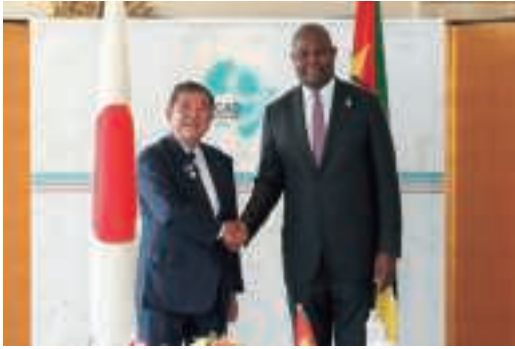


日・南アフリカ首脳会談(11月28日、南アフリカ・ヨハネスブルグ
写真提供：首相官邸ホームページ)

(9) モザンビーク

モザンビークは、天然ガス、石炭、黒鉛などの豊かな天然資源を有し、南東部アフリカの玄関口としてFOIPを西側から臨む要衝である。同国北部における武装勢力による襲撃により、2021年に、日本企業も参画する液化天然ガス(LNG)開発事業が中断されて以降、日本政府は、治安改善に向け様々な支援を継続している。

6月には大阪・関西万博のモザンビーク・ナショナルデーに参加するため、レヴィ首相が訪日し、林官房長官と会談したほか、8月のTICAD 9ではチャボ大統領が訪日して石破総理大臣と首脳会談を行い、両首脳は、二国間関係の強化とナカラ回廊開発における協力を継続していくことで一致した。



日・モザンビーク首脳会談
(8月22日、横浜 写真提供：首相官邸ホームページ)

5 中部アフリカ地域

(1) ガボン

4月に大統領選挙が行われ、暫定大統領であったオリギ・ングマ氏が、95%以上の得票率で当選した。5月に実施された大統領就任式に、江島潔参議院議員が総理特使として出席した。7月、大阪・関西万博に際し、パロ・シャンブリエ副大統領が訪日し、岩屋外務大臣と会談した。8月のTICAD 9には、オナンガ・ンディアイ外相が出席し、岩屋外務大臣と会談を行った。

(2) カメルーン

10月の大統領選挙で、現職のビヤ大統領が再選された。同国政府は、ポコ・ハラム等が活動する北部及び武装した分離独立派が活動する英語圏地域問題の解決に向けた取組を継続している。

6月には、宮路拓馬外務副大臣がカメルーンを訪問し、ンゴ・ンゴ大統領府官房長官、ングテ首相及びンバイユ外務副相と会談を行った。8月のTICAD 9には、ングテ首相及びンベラ・ンベラ外相が出席し、それぞれ石破総理大臣、岩屋外務大臣と会談を行った。また、9月、ンバルガ・アタンガナ商業相が大阪・関西万博の機会に訪日し、要人往来の活発な1年となった。

(10) レソト

レソトは国土の大部分が山岳高地の内陸国で、豊富な水資源を有し、近隣国に水を輸出している。日本も、同国の小水力発電設備に対する支援など、様々な分野で協力関係を築いてきた。7月には、大阪・関西万博のレソト・ナショナルデー出席のため、レツィエ3世国王及びマセナテ王妃が訪日した。また、8月のTICAD 9では、マテカネ首相が初訪日し、石破総理大臣と首脳会談を行い、両首脳は二国間関係を一層強化することで一致した。

(3) コンゴ民主共和国

日本は、運輸交通や電力などの分野におけるインフラ支援を含め、同国の社会経済発展に向けた協力を進めている。

1月末、東部地域では武装勢力の活動が活発化して情勢が悪化し、北キブ州や南キブ州では武装勢力が実効支配する状況に陥った。大量の国内避難民が発生するとともに、人権・人道状況の悪化が更に深刻化した。首都キンシャサにおいても、現状への不満を持つ市民による大規模デモが発生し、一部暴動や略奪行為も発生した。東部地域では、国連コンゴ民主共和国安定化ミッション(MONUSCO)が展開している。日本は、「地域警察モデル」の再構築・普及・定着を通じた支援を行っている。

6月には大阪・関西万博に際し、また、8月には横浜でのTICAD 9出席のため、スミヌワ首相が訪日し、いずれも石破総理大臣と会談を行った。

(4) コンゴ共和国

広大なコンゴ盆地を擁する同国は、森林保全を含めた気候変動課題に積極的に取り組んでいる。

食料安全保障への対策が急務となっていることから、日本は同国に対し、国連世界食糧計画

(WFP) を通じた食糧援助を継続的に行っている。8月には、同国との間で、技術協力協定に署名した。8月のTICAD 9には、サス・ンゲソ国際協力・官民連携推進相が出席し、岩屋外務大臣と会談を行った。

(5) サントメ・プリンシペ

豊かな自然環境に恵まれたサントメ・プリンシペでは、エコツーリズムなどの環境分野に力を入れている。日本政府は食糧援助を継続的に実施している。

8月のTICAD 9には、ラモス首相が出席し、石破総理大臣と会談を行った。また、9月、マタ環境・青年・持続可能な観光相が、大阪・関西万博に際し訪日した。

(6) 赤道ギニア

赤道ギニアでは、オビアン・ンゲマ大統領の長期政権が維持されている。7月、大阪・関西万博に際しンゲマ・オビアン・マンゲ副大統領が訪日し、林官房長官と会談を行った。また、8月のTICAD 9には、オサ・ンスエ・ンスア首相が出席し、石破総理大臣と会談を行った。

(7) チャド

チャドでは、2月に史上初となる上院議会選

挙を実施した。4月、大阪・関西万博に際しアフマト経済・社会・文化・環境評議会議長が訪日した。8月のTICAD 9には、アルハボ大統領府官房長官兼国務相が出席し、岩屋外務大臣と会談を行った。日本は、食糧援助や、スーダン難民を始めとする周辺国からの難民・避難民の受入れにより負担が増しているホストコミュニティ（受入れ地域）のための支援などを引き続き実施している。

(8) 中央アフリカ

中央アフリカにおいては、多数の反政府武装勢力が存在しており、国連中央アフリカ多面的統合安定化ミッション（MINUSCA）が展開している。治安・人道状況は改善傾向にあるものの、引き続き多数の国内避難民が存在している。

7月、大阪・関西万博に際しアコロザ貿易産業担当相が訪日した。また、8月のTICAD 9にはトゥアデラ大統領が出席し、石破総理大臣と会談を行った。

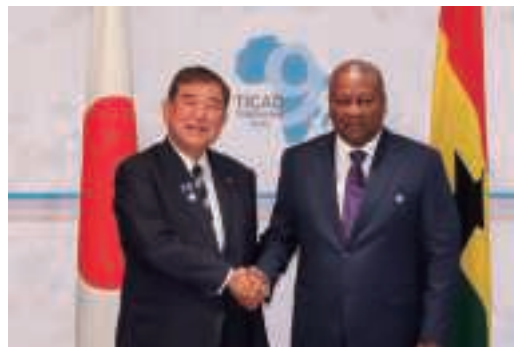
さらに、8月、無償資金協力「食糧援助（WEP連携）」に関する書簡の署名・交換を行った。12月には大統領選挙・国民議会選挙・地方選挙が行われ、現職のトゥアデラ大統領が再選された。

6 西部アフリカ地域

(1) ガーナ

1月、第2期マハマ政権が発足し、同月7日に総理特使として田中良生衆議院議員がマハマ大統領就任式に出席した。同政権は経済・財政状況の立て直しを最優先課題としている。7月、農業、製造業の生産性を高め、バリューチェーン全体の改善を図り、輸出主導型経済の確立を目指す「24時間経済及び輸出促進開発プログラム」を発表し、推進している。

8月のTICAD 9にはマハマ大統領が出席し、石破総理大臣と会談した。また、大統領に同行したアブラクワ外相が岩屋外務大臣と会談し



日・ガーナ首脳会談
(8月20日、横浜 写真提供：首相官邸ホームページ)

た。9月には、大阪・関西万博に際しオフアス＝アジャレ貿易・産業・アグリビジネス相が訪日した。

日本は、野口記念医学研究所を通じた感染症対策を含む幅広い分野で同国を引き続き後押ししている。

(2) カーボベルデ

カーボベルデは民主主義が定着しており、高い政治的安定を誇っている。

2月、アディスアベバ（エチオピア）で開催されたAU総会の機会に、ヴィエイラ外務・協力閣外相が英利外務大臣政務官と会談した。また、8月のTICAD 9にはコレイア・エ・シルヴァ首相が出席し、石破総理大臣と会談した。10月には、大阪・関西万博に際し、サントシユ海洋相が訪日した。

(3) ガンビア

ガンビアは、法の支配の強化や債務状況の改善に取り組んでいる。主要産業である農業は脆弱であり、日本は農業や官民連携を通じた支援を行っている。

8月には大阪・関西万博に際しジェフ通商相が訪日したほか、TICAD 9にはジャロウ副大統領が出席し、石破総理大臣を表敬した。

(4) ギニア

2021年9月に発足した暫定政府により、民政移管プロセスが進行中である。

1月、ナベ計画・国際協力相が訪日し、藤井外務副大臣と会談を行った。6月、大阪・関西万博に際しバー暫定政府首相が訪日し、林官房長官と会談を行った。6月には食糧援助、7月には消防関連機材の供与に係る無償資金協力に関する書簡の署名・交換を行った。8月、TICAD 9の機会に訪日したナベ計画・国際協力相が岩屋外務大臣と会談を行った。9月、国民投票により可決された新憲法が公布され、12月の大統領選挙では、2021年9月より実権を握っていたドゥンブヤ暫定大統領が選出された。

(5) ギニアビサウ

5月、大阪・関西万博に際しエンバロ大統領が訪日し、石破総理大臣と会談した。また、8月のTICAD 9にはサンブ経済・計画・地域統合担当相が出席し、岩屋外務大臣と会談を行った。11月に大統領選挙が実施されたが、その暫定結果発表予定日の前日に同選挙に立候補したエンバロ大統領らが軍に拘束され、陸軍参謀総長が暫定大統領に就任するクーデターが発生した。

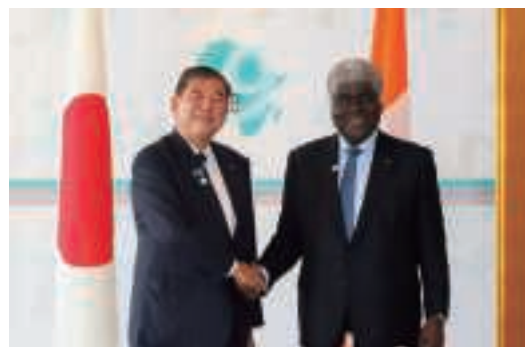
(6) コートジボワール

安定的な高い経済成長率を達成する同国との間では、経済関係の強化が進展した。1月には、日・コートジボワール官民インフラ会議がアビジャンで開催され、同会議には両国の民間企業も参加した。

6月、大阪・関西万博のコートジボワール・ナショナルデーにディアラスバ商業・産業相が参加した。8月、TICAD 9には、マンベ首相、カバ経済・計画・開発相、アドム外務・アフリカ統合・在外自国民相、クリバリ通信相兼政府報道官及びコナテ・デジタル移行・デジタル化相が参加した。また、同機会を捉え、マンベ首相が石破総理大臣と、アドム外相が岩屋外務大臣とそれぞれ会談を行った。10月には大統領選挙が実施され、ウワタラ大統領が通算4期目の再選を果たした。

(7) シエラレオネ

2023年に再選されたビオ大統領は、「2024



日・コートジボワール首脳会談
(8月22日、横浜 写真提供：首相官邸ホームページ)

年ー2030年国家開発計画」の下、地方分権、地域開発、食料の輸入依存からの脱却、インフラの改善等に取り組んでいる。

6月、シエラレオネは西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）の議長国に就任した。9月、日本は同国との間で食糧援助に係る無償資金協力に関する書簡の署名・交換を行った。8月のTICAD 9にはセンゲ首席相が出席し、岩屋外務大臣と会談した。

(8) セネガル

3月、ジョップ国防相が訪日し、松本^{ひさし}尚外務大臣政務官と会談を行った。

4月、岩屋外務大臣は、セネガルを訪問し、ファイ大統領及びボンゴ首相を表敬するとともに、ファル・アフリカ統合・外相と会談を実施した。また、同機会に、岩屋外務大臣は、日本の支援で1984年に設立したセネガル日本職業訓練センターを視察するとともに、現地の日本企業関係者と意見交換を行った。

8月のTICAD 9には、ファイ大統領、ファル・アフリカ統合・外相、ジョップ産業・通商相及びサール経済・計画・協力相が参加した。同機会に、ファイ大統領は、石破総理大臣と会談を行った。また、ファイ大統領一行は、大阪・関西万博のセネガル・ナショナルデーに参加した。

10月、日本は同国との間で、セネガル職業訓練センターの分校建設及び農業機材供与に係る2件の無償資金協力に関する書簡の署名・交換を行った。



日・セネガル首脳会談
(8月20日、横浜 写真提供：首相官邸ホームページ)

(9) トーゴ

前年5月の憲法改正に伴い、5月、閣僚評議会議長の指名及び上下両院合同会議からの大統領の選出が行われた。この結果、ニヤシンベ前大統領が初代閣僚評議会議長に、サビ＝ド＝ドベ氏が大統領にそれぞれ就任した。

8月のTICAD 9には、ニヤシンベ閣僚評議会議長、ドュセ外務・地域統合・在外国民相が参加した。同機会に、ニヤシンベ閣僚評議会議長は、石破総理大臣と首脳会談を行った。

また、8月、大阪・関西万博でトーゴ・ナショナルデーが開催され、サンビアニ商業・手工業・地方消費相が参加した。10月、日本は同国との間で、治安対策用警察車両等を供与する無償資金協力に関する書簡の署名・交換を行った。

(10) ナイジェリア

2023年5月に就任したティヌブ大統領は、国内の経済発展を優先政策として掲げ、積極的に経済・財政改革の施策を推し進めている。

3月、アフリカ最大規模のダングォテ精油所内でポリプロピレン生産が開始、また、5月末には米国の民間格付け会社ムーディーズがナイジェリアの格付けを上げるなど、外貨不足解消、現地通貨の価値の安定化の方向に進んでおり、ナイジェリア経済は回復基調にある。

8月のTICAD 9にはティヌブ大統領が出席し、同行したトゥガー外相が岩屋外務大臣と会談した。同会談で、両国は、経済分野やグローバルな課題に向け協力を深めていくことで一致した。

さらに、両国はナイジェリアに対するオファー型協力「スタートアップ支援による社会課題の解決と経済強^{じん}靱化」を立ち上げることで一致し、日本はナイジェリアの産業発展のための取組を推進している。

(11) ニジェール

2023年7月の軍事的政権奪取以降、民政移管に向けた取組が注視されてきた同国は、3月、国家の再建を目指し、司法の独立の強化や新憲

法の採択などを目的とする再建憲章を公布した。

日本は、ニジェールにおける憲法秩序の早期回復に向けた取組を求める一方、人道状況改善のため、国際機関を通じた支援などを継続している。

(12) ブルキナファソ

2022年1月及び同年9月に発生した軍事的政権奪取の後、暫定政府が発足し、民政移管に向けて取り組んでいる。地方でテロや襲撃が頻発するなど、治安の悪化が深刻であり、多数の国内避難民が発生している。

日本は、国内避難民の急増等による食料危機への対策に貢献するため、8月に無償資金協力「食糧援助」に関する書簡の署名・交換を行った。

(13) ベナン

サヘル地域のテロ組織の南下によりベナン北部の治安対策の強化が喫緊の課題になっている。また、12月には、軍の一部によるクーデター未遂が発生した。

日本は、インフラ整備、産業振興及び国民の生活環境改善を通じて、二国間関係を深化させている。また、ベナンの投資環境改善等のため、約30年ぶりとなる円借款を供与する方針を決定した。

6月、宮路外務副大臣は同国を訪問し、チャビ・タラタ副大統領、アジャディ・バカリ外相及びワダニ経済・財務相を表敬した。また、元国費留学生及び元JICA研修生、並びに在留邦人ともそれぞれ意見交換した。8月のTICAD 9にはチャビ・タラタ副大統領が出席し、同機会に石破総理大臣との会談を行った。また、大阪・関西万博のベナン・ナショナルデーにはアビンボラ観光・文化・芸術相が参加した。

(14) マリ

2020年8月及び2021年5月に発生した軍事的政権奪取を経て、暫定政府が発足し、民政移管に向けて取り組んでいる。国連マリ多面的統合安定化ミッション(MINUSMA)⁽⁹⁾の撤退後も、北部及び東部を中心に、テロや襲撃、衝突などが頻発しており、治安及び人道状況が深刻化している。

日本は、マリの平和と安定及び持続的成長を後押しするため、教育、食料安全保障のほか、治安や保健などの分野において協力を実施している。

(15) リベリア

リベリアは、法の支配の確立のため内戦時の戦争犯罪や汚職の解決のため法廷設置に着手している。また、1月には開発の優先課題であるインフラや保健等を柱とした5か年計画を策定した。

8月のTICAD 9にはボアカイ大統領が出席し、石破総理大臣と会談した。両首脳は開発協力や経済関係強化について議論した。また、同月、大阪・関西万博にはニャンティ外相が参加した。

(16) モーリタニア

政治・治安情勢が不安定化するサヘル地域に位置するも、2011年を最後にテロが発生しておらず、安定した政権運営を続けている。水産物、鉄鉱石や金、天然ガスなどの資源が豊富であり、2025年から大規模ガス田から採掘する天然ガスの液化、輸出が開始された。

4月、ブー経済・財務相が訪日し、松本外務大臣政務官と会談を行った。5月に、同国のタハ元財務相がアフリカ開発銀行(AfDB)総裁選で新総裁に選出された。また、8月、ガズワニ大統領がTICAD 9出席のため訪日し、石破総理大臣と会談を行った。

(9) MINUSMA : United Nations Multidimensional Integrated Stabilization Mission in Mali

コラム

COLUMN

日・カーボベルデ外交関係樹立50周年を迎えて

■ 大西洋に浮かぶ島国、カーボベルデ

カーボベルデは大西洋上に浮かぶ10の島々で構成される小島嶼国^{しよ}です。首都プライアがあるサンティアゴ島、美しいビーチがありヨーロッパから観光客が多く訪れるサル島、漁業と文化の拠点でありカーボベルデを代表する歌手セザリア・エヴォラの出身地であるサン・ヴィンセント島、頻りに噴火する火山があるフォゴ島など、個性豊かな島々が存在します。

面積は約4,033平方キロメートルで滋賀県とほぼ同じ、人口も50万人と小さな国ですが、その内実は多様です。民族は、ヨーロッパ（ポルトガル）系とアフリカ系の混血が約70%を占め、そのほかはアフリカ系住民で構成されています。公用語はポルトガル語で、宗教はキリスト教が80%を占めます。

近年は観光地として栄え、2023年には年間の訪問者数が100万人を超え、過去最多となりました。

■ 日本とカーボベルデの関係

1975年7月にポルトガルから独立して以来、日本とカーボベルデは良好な二国間関係を築いてきました。2025年にカーボベルデの独立50周年と、日・カーボベルデ外交関係樹立50周年という二つの節目を迎えました。

この記念すべき年に、両国の交流を一層深める事業が実施されました。3月には、カーボベルデを兼轄する在セネガル日本国大使館とカーボベルデ政府の共催で、日本文化紹介イベントが開催され、八丈島と青ヶ島から招かれた還住^{かんじゆう}太鼓奏者の演奏とカーボベルデの伝統的な太鼓奏者による共演が披露されるなど、両国間の相互理解と文化交流が促進されました。8月には、横浜で開催されたTICAD 9にコレイア・エ・シルヴァ首相が訪日し、石破総理大臣と会談を行い、二国間関係の更なる深化に向けて、引き続き緊密に連携していくことで一致しました。また、10月には、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）ナショナルデーへの出席のため、サントシュ海洋相が訪日しました。

日本はカーボベルデに対して、無償資金協力による食糧援助や水産分野等の支援、有償資金協力による給水や電力分野の支援に加え、様々な分野での技術協力を実施してきました。最近では12月に、食糧援助のための1.5億円の無償資金協力の実施を決定しました。また、日本企業がカーボベルデ上下水道公社と契約し、サンティアゴ島における海水淡水化プラント及び送水網の建設工事も進めています。こうした取組により、民間レベルでも日・カーボベルデの関係構築が進んでいます。



TICAD 9の機会に実施された日・カーボベルデ首脳会談（8月21日、横浜）写真提供：首相官邸ホームページ

カーボベルデは日本から飛行機で30時間かかる遠い国ですが、第二の都市であるミンデロは独立前から50年以上にわたって日本のマグロ漁船の寄港地となっています。大西洋上で操業するマグロ漁船が年間約40艘寄港し、日本に向かう船舶に冷凍マグロを積み替えて運搬しています。このように、カーボベルデは日本の食卓も陰で支えています。

日本と同様に海に囲まれた海洋国家であり、民主主義等の普遍的価値も共有するカーボベルデとの関係を、今後一層強化していきます。



カーボベルデで実施された日本文化紹介イベント（3月、カーボベルデ・ミンデロ）

